ついじまつ COMMUNICATION 19

ついじまつコミュニケーション：築地松情報誌2004.2月　発行ー築地松景観保全対策推進協議会

樹齢一〇〇年を超える雄々しい築地松の巨木。その枝の間から垣間見る明るい空。出雲平野にもやっと優しい表情の春の空が戻ってきた。厳冬の冷たい北西風に耐えてきた築地松たちも、ほっと一息入れて互いに「お疲れさま」と労いの声を掛け合っているだろう。

空の下に見えるのは、今では珍しくなった茅葺き屋根である。やはり築地松には茅葺き屋根がよく似合う。出雲というより、日本の原風景と言ってもいいだろう。

茅葺き屋根は、時代とともに瓦屋根に変わってきたが、その中に暮らす人々を見守る築地松は変わらない。

築地松景観保全住民協定（特定住民協定）の認定状況について

築地松景観保全住民協定は、築地松景観を保全するために、一定の区域の住民に協定を結んでもらい、その住民協定に基づいて行う築地松の維持管理費に対して助成をする制度です。平成15年4月から、この住民協定制度が改正され、特定住民協定と一般住民協定の2つに分かれました。それに伴い、各市町とも、多くの特定住民協定が新たに認定されています（従来の協定は、自動的に一般協定に移行しています）。

■築地松住民協定締結団体分布図

● …… 特定協定地区
○ …… 一般協定地区

■築地松景観保全住民協定の認定（平成15年12月末現在）

合計:協定数:151／構成人数:3,045人
所有者:2,219人／面積:2,796.98ha

	出雲市		平田市		斐川町		大社町		合計	
	特定	一般	特定	一般	特定	一般	特定	一般	特定	一般
協定数	7	47	9	11	44	12	4	17	64	87
構成人数	129人	607人	339人	291人	1,085人	235人	59人	300人	1,612人	1,433人
所有者数	98人	480人	245人	174人	729人	157人	41人	295人	1,113人	1,106人
面積	109.2ha	447ha	365.04ha	242ha	1214.3ha	223.3ha	52.6ha	143.54ha	1741.14ha	1055.84ha

■築地松助成金の交付（平成14年度）

	出雲市	平田市	斐川町	大社町
助成人数	68人	42人	71人	25人
助成額	2,598,960円	1,618,685円	2,514,745円	948,125円

合計:助成人数　206人
助成額　7,680,515円

懐かしい築地松の写真が残っていませんか？ 募集！

▲昭和40年頃の出雲長浜地区での田植え風景

築地松景観保全対策推進協議会では、築地松が入った懐かしい風景写真を集めています。
写真をお送りいただいた方には粗品をプレゼント！
お送りいただいた写真は、「懐かしの築地松景観」として、築地松コミュニケーション誌上で順次紹介していく予定です。
※返却が必要の場合は「返却希望」と明記してください。

▲昭和40年頃の斐川町の民家

送り先：島根県景観自然課または市町役場担当課あてにお送りください。なお、写真には、その写真をお撮りになった大体の場所と時期、及び簡単なコメントを添えてください。

◆ワークショップ

「晩秋の築地松を見て歩く会」が開催されました。

のどかに広がる田畑と高い空の合間に、築地松に守られた民家が点在する斐川地区。この出雲平野独特の景観の中を散策しながら、築地松を見て・聞いて・感じるワークショップが、去る平成15年11月16日（日）、斐川町の今在家農業ホールで開催されました。新聞公募・関係市町村の広報などにより、幅広い年齢層の50名が参加。午前中は三つのグループに分かれて斐川町内の築地松周辺のウォーキングを楽しみ、昼食をとりながらのビデオ鑑賞、そして午後からは陰手刈職人さんによる講演・質疑応答と、盛りだくさんの時間を過ごしました。

築地松のある家と旧豪農屋敷見学に興味しんしん

午前9時30分。集合会場の今在家農業ホールで開会セレモニーが行われ、参加者全員は、まずバスに乗り込み、散策コースの斐川町景観保全地域を車窓から眺めます。その後、いよいよ今在家農業ホールを基点に、約5kmのウォーキングに出発しました。三つのグループを引率し案内役を務めるのは、大森志治夫氏（斐川町生涯学習課長補佐）、高田浩氏（斐川町環境政策課課長）、そして宍道年弘氏（斐川町文化財課文化財係長）と、いずれも地元の築地松に詳しい面々。参加者のみなさんは、時折足を止めてガイドの話に耳を傾けながら、散居集落・高うね農法（盛り上げた土に苗が植えられている）の田畑が特徴的な出雲平野をゆったりと進みました。

当日は、前夜までの強い雨がうそのように晴れあがり、西風も無くおだやかな天気に恵まれた散策日和。旧家の多い出東地区では、萱葺き屋根の母屋と倉、竹林、墓地、そして荒神を配した代表的な屋敷構えの民家を間近で見たり、築地松とは異なる竹を編みこんだ屋敷森を発見するなど、歩いてこそ出会える風景を満喫しました。

散策コースは、斐川町指定文化財・原鹿の旧豪農屋敷が終点です。出雲流枯山水の庭園をのぞむ江戸末期の建築様式がふんだんに施された建物を見学し、散策の心地よい疲れを癒しました。また、お隣りの位置する旧豪農屋敷の館長を務める岡さんの自宅を訪ね、敷地内を見学。岡さん宅の築地松は、約16mという見上げる高さです。奥様から「レースのカーテンのように適度に太陽の光と風を通す。」「台風19号の被害は、窓ガラスが一枚割れただけ。」と説明を受け、参加者たちは築地松の重要性に深く頷いていました。

陰手刈職人の坂本芳友さんに質問殺到！

午後からのワークショップでは、実際に岡さん宅の築地松を手がけている坂本さんの講演が開かれました。陰手刈に使う道具（鎌など）を持参し、作業の仕方や苦心する点などを職人の立場から説明する坂本さんの話に、参加者たちは熱心に聞き入っていました。質疑応答では、後継者問題、作業時間と日当、築地松の平均的な高さ、仕事の危険度などについて続々と質問が寄せられ、ユーモアをまじえながら答える坂本さんを中心に、なごやかなムードの中で時間が流れました。参加記念品として斐川町・出西窯のオリジナル湯呑みなどが贈呈。午後2時には全ての日程が終了し、参加された皆さん満足の晩秋のワークショップでした。

●参加者コメント

（三刀屋町・女性）「早くから起きてやってきた甲斐があった。外から見ると築地松は美しい風景だが、維持管理の大変さを実感した。」
（平田市・女性）「通勤は徒歩だが、築地松をゆっくり見る暇はない。今日は、築地松の魅力をたっぷり味わった。手がける職人さんによって、形が微妙に違うところが面白い。」
（松江市・男性）「新聞広告を見て参加したが、築地松は松江市内では見ることが無いので、とても興味深く、楽しかった。旧豪農屋敷は建物の構造がすごい。参加して良かった。
（斐川町・男性）「自宅にも高さ13mの築地松があるが、自分で剪定している。補助金が減少したのは残念だが、昔は全部自前でやっていたのだから仕方ないとも思う。また、陰手刈は4～5年に一度のせいか、補助金の変化など県からの情報収集に立ち遅れてしまう。もっと細やかな情報公開に期待したい。」

The life with the Tsuijimatsu

築地松のある生活

勝部政則さんご夫妻（斐川町原鹿）

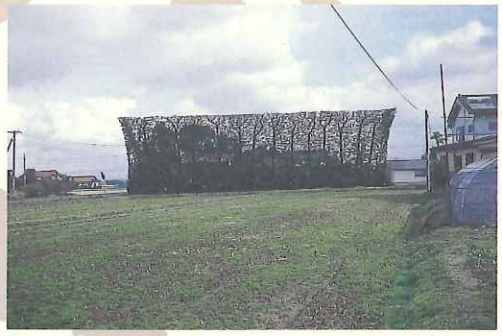
多くの人たちとの交流を生み出す『わが家の築地松』

斐川町で300年以上の歴史を持つ勝部家の12代当主、勝部政則さんのお宅を訪ねました。

昔ながらのたたずまいを醸し出す母屋を守っているのは、19本のクロマツ。高さは13mです。昨年、陰手刈の作業を終えられたばかりとあって、すっきりと刈りこまれた松の木は、間近で見ると、枝と松葉が自然に織りなす模様の合い間からうす曇りの空がやわらかく透けていて、まるで繊細な絵筆で描かれた壁画のようです。

勝部家の屋敷森の歴史も300年前にさかのぼります。当初は、屋敷を守る防風林として、タブの木を四方に植えていたようですが、クロマツに変わったのは、200年ほど前のことでした。「特別に手をかけているいう意識はありません。ただ、祖先が残した財産を、自分の代で絶やすわけにはいかないという気持ちはありますね。」と、政則さん。しかし、そこには家長としての義務感よりも、家族の歴史に寄り添ってきた築地松への愛着の方が大きいのです。西日や西風を遮り、台風の被害からも家屋を守ってきた強さ。庭に広がる敷松葉の美しい眺め。そして、以前は風呂の薪としても活躍した廃材。斐川町の風土に根ざした築地松は、勝部家の暮らしに自然な形でなじみ、代々受け継がれてきたのです。「松食い虫が発生した頃は、さすがに大変でした。森林組合や行政と相談しながら、対策に頭を悩ませました。消毒に落ち着くまでは、手探りの状態でしたね。」その消毒作業も、田植えの時季を避けたり、周辺の環境に配慮して風の無い日を見極めて行うなど、苦労が無いとはいえません。それでもこの景観を守り続けるのは、勝部さん一家にとって築地松が無くてはならない存在だからです。

「築地松のおかげで、思いがけない出会いもあるんですよ。」と、奥様。それは、見知らぬ人たちとのふれあいです。毎年年賀状のやりとりをしている千葉在住の夫婦や、駅伝大会で斐川平野を駆け抜けた東京の大学生、インテリア雑誌の出版社、そして築地松の研究家などなど、築地松をきっかけに勝部家と交流を深める人たちは多岐に渡っています。「維持する苦労はあるけれど、築地松のおかげで私たちの生活にも張り合いがあります。」と、目を細めて話してくれました。築地松の存在は、そこで暮らしを紡いでいる人が一番その良さを実感している。だからこそ、外からみる景色の美しさにもその想いが滲み出ているのです。



ついじまつクイズ

問題1

築地松を剪定する職人さんのことを ‥‥「陰手刈り」さんと呼びますが、陰手の意味はさて、なんでしょう？　漢字で、どう書くかご存知ですか？

①日陰
②孫の手
③猫の手

正解は①です。陰手はれっきとした出雲弁。日陰のことを指します。築地松の枝が伸びきると、どうしても日陰ができてしまいますよね。家の中が暗くなるばかりでなく、この築地松の日陰が周囲の田畑の作物にも影響を与えます。そこで、日陰をつくらないために刈るということで、「陰手刈り」。
陰手刈りの重要さがこの言葉には表れていますよね。

問題2

出雲平野と同じように散居景観でお馴染みの富山県の砺波平野。この平野で家を守る防風林は、さて一体なんと呼ばれるでしょう？

①にょっきり
②かいにょ
③ひょっこり

さて、「正解はどれ？」

正解は②です。富山の防風林、「かいにょ」の種類としては、風の強い南側には杉・けやきなどの大きな樹木、西側には竹、家の前や北側には柿・桃・梨・いちじくなどが植えられることが多いそうです。

問題3

平田市を舞台とした映画「白い船」。そのワンシーンに黄金色に輝く出雲平野の中、そびえ立つ築地松が出てきたのを皆さん、覚えていらっしゃいますか？　このように出雲を描いた映画や小説、絵画の中に築地松は欠かせない存在となっています。その中でも築地松のある生活の雰囲気がよく伝わるファンタジー小説があります。その題名は「美しい雲の国」（集英社文庫）。10歳の少女のひと夏の思い出を綴ったものです。さて、この作品を手掛けた出雲出身の作家といえば、ずばり誰？

①小泉セツ
②江角マキ子
③松本侑子

さて、「正解は何番？」

正解は③です。築地松やその枝で炊く五右衛門風呂。美しく陰手刈りされた松葉の間からそよ吹く夏風。読んでいるだけでも、のどかでどこか懐かしさがこみ上げてきます。機会があったら是非、読んで下さい。
その他、あの村松友視の「時代屋の女房～怪談篇～」（角川文庫）にも、築地松は独特の存在感で登場します。作家達にもイマジネーションを与える、それが築地松なのですね。

築地松景観保全対策推進協議会

島根県環境生活部景観自然課　〒690-8501 松江市殿町１番地　電話 0852-22-6143
島根県出雲総務事務所　〒693-8511 出雲市大津町 1139　電話 0853-23-1515
出雲市都市整備部都市計画課　〒693-8530 出雲市今市町 109-1　電話 0853-21-2211
平田市建設経済部農林水産課　〒691-8601 平田市平田町 951-1　電話 0853-63-5545
斐川町環境政策課　〒699-0592 斐川町大字荘原町 2172　電話 0853-73-9256
大社町まちづくり推進課　〒699-0792 大社町大字杵築南 1395　電話 0853-53-5557
ついじまつホームページアドレス　http://www.pref.shimane.jp/section/keikan_shizen/keikan/

R100